用語 【コンシェルジュ】案内人・総合世話係

中村 博美 議員

質問

コンシェルジュは「道の駅」の顔

答弁

「道の駅」には観光案内所を設置し、地域観光に精通する方を雇用する

中村議員の質問動画

議員
道の駅が開業するにあたり観光案内所を設置しコンシェルジュが情報を発信することで、何度も来ようと思う取り組みをしてほしい。

産業振興部長
地域観光情報等に精通する者を、性別・年齢問わず広く雇用する。

議員
市内周遊のための案内板の設置について問う。

産業振興部長
情報ラウンジ内に、道の駅から市内を周遊してもらうことを目的とした、はがきサイズのまちナビカードを置き、発信する。

議員
以前から要望している看板の設置により、看板を見ながらナビカードを持ち歩けるので看板の設置をお願いしたい。次に市内工芸品等の展示スペースについて問う。

産業振興部長
情報ラウンジ、階段脇の壁面、2階の情報スペース等があるが、限られた空間のため、情報発信用のモニターで市内のどこに行けば見られるか、買えるかをPRしたい。

議員
音楽ライブ等を行うステージに屋根が必要と思うが考えを伺う。

産業振興部長
ステージは常設でなく、イベントに併せてレンタルを検討しているため、屋根もその中で検討する。

議員
常時イベントを開催し、若い方からお年寄りの方までお客様をお呼びすることを考えてほしい。それには市内から道の駅に市民を送迎するデマンドバス等が実現すればよいと考える。愛される道の駅の開業に向け、今の考えを市長に問う。

市長
市民の皆様と対話をする中で、道の駅の細部までの意見を多数聞く。イベントを含め様々な情報発信をし、また、年に1回は常総フェスティバル等を企画して、多くの方々に「また常総市に行きたい」と思っていただきたい。

議員
ここには書ききれないほどの市長の考えを聞き、ぜひ道の駅を皆で成功させたいと考える。

堀越 道男 議員

質問

広域避難先は明示すべき

答弁

マイタイムラインで複数の避難先を想定していただきたい

堀越議員の質問動画

議員
2015年9月の水害の経験から、常総市内のみで避難が済むものではなく広域的な避難が必要になっている。広域避難協定の内容を伺う。

市長公室長
鬼怒川・小貝川下流域の大規模水害に関する減災対策協議会の構成13市町で、令和元年5月30日に広域避難に関する協定を締結した。協定に基づき、市町が相互で広域避難を実現可能としている内容である。

議員
ホームページに掲載している広域避難計画を行う場合の基準と要件では、避難受け入れ市町の避難所の準備が整った場合には、常総市は避難する市民に対して周知を行うとあるが、住民の感情としては、一番安全なところに逃げたい。避難経験したところなら尚更で、災害が起きて相手の準備ができたら周知をするのでは時間的に大変な遅れがでてくるのではないか。

市長公室長
令和元年の台風19号では、つくば市261人、つくばみらい市144人、下妻市12人、坂東市に1人の合計418人が広域避難されている。広域避難計画に基づいた受け入れ、開設運営とは結果的に異なったが、大きな混乱なく連携して、対応ができたと考える。

議員
マイタイムラインは自己責任だけを要求しているように見える。災害で一刻も早く安全なところへ避難したいと思っているわけだから、事前にこの地域は広域のどこへ避難すると周知させておくのがいいのではないか。

市長公室長
市民の皆さんは自分が逃げたい所に逃げる傾向がある。知人、友人、高台と事前にマイタイムラインで、複数の避難先をそれぞれ想定していただくのがよいと考える。

議員
最初にくるのが親戚や知人だと、いない人はどうするのだということになる。公的立場で広域連携があるのだから、避難先をはっきりさせるのが一番の協定の要ではないか。